



**9月県議会**（9/21～10/7）**小林伸陽**県議の一般質問と答弁を紹介します。  
（9月28日）

## 放射性物質の取り扱い 県独自条例の制定を

放射性物質を含む廃棄物の取り扱いについて、阿部知事は、前日のふじおか県議の質問に対して「（県外のものも）受け入れやむなし」と答弁しました。**小林県議**は「長野県が放射能汚染物質のごみ捨て場となれば、観光や農業に甚大な風評被害を与えてしまう」として、①県独自の管理条例を制定する②それまでは県外からの持ち込みを拒否する一ことを提案しました。**阿部知事**は、「国の基準は処分場の外には影響がないという前提」「そういう議論が行われること自体が風評になってしまっただけではいけない」と答弁。**小林県議**は、国の基準がはっきり定まっていないからこそ県民の生活や財産を守るという点で県はどう対応するのかと質しました。

また、今ある、放射性物質の事故災害に対する県の指針の運用や、今後策定される防災計画についても質問しましたが、下條危機管理部長の答弁は危機感が無く、「答弁が危機的」との声も聞かれました。

## 鳥獣害対策 実態を調査して本当に必要な対策を

ニホンジカなどの鳥獣害により山林や農地が荒らされ、耕作放棄地も広がっていますが、小林県議の質問により、鳥獣害が原因の耕作放棄地は、鳥獣害の被害額に算入されていないことが明らかになりました。また、耕作放棄の規模も調査されていませんでした。小林県議は、「シカの害によって農地を放棄せざるを得ないという切実な実態を調査して、具体的な支援を本気で議論すべき」と求めました。

ニホンジカの捕獲について、小林県議は、県の報奨金が「1日1500円程度」と、市町村に比べて低いと指摘し、改善を求めました。久米林務部長は、「調査して検討したい」と答えました。

## 一人暮らしの高齢者 特別養護老人ホーム入所の支援と施設整備を

介護保険料は天引きされているのにいざとなったら施設に入所できるのか。特に一人暮らしの高齢者にとっては切実な問題です。小林県議は施設整備を進めるとともに、一人暮らしで低所得者の高齢者への支援もあわせて要望しました。三村健康福祉部長は「県内の実情や要望を聞きながら、具体的な計画を策定する」と答えました。



質問を終えて……小林伸陽

質問準備のなかで、県のシカの捕獲奨励金が上伊那の箕輪・飯島町、南箕輪・宮田村の4町村に本年度捕獲目標605頭に1頭あたり2500円が支給されていないことが判明、ただちに支給することになりました。日当の支給制度の創設を求めたことを知り、箕輪町の平沢町長は町は今年から日当の支給を始めたい、県でも是非実現してほしいと強い要望が寄せられました。